

# 青い空

ふじみ野市  
いじめゼロ  
連絡協議会

いじめで苦しむ子ゼロを目指し、市民のみならず、いじめの現状について知っていただきたいと考え、この通信を発行します。

## いじめの定義

児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であつて、当該行為の対象となつた児童生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。

（いじめ防止対策推進法第2条第1項）

法律の定義に基づくと、対象となつた児童生徒が心身の苦痛を感じているものは、全ていじめとなります。

### 具体例①

Aさん・Bさん・Cさんは、お互いにあだ名で呼ぶことにしました。でも、Bさんはそのあだ名が嫌で傷ついています。

### 具体例②

Aさんは、イライラしていて、Bさんに話しかけられたとき無視をしてしまいました。BさんはAさんに無視されて傷ついています。

### へしている側

### へされている側

ふざけているだけ ↓ 傷ついている  
大したことはない ↓ 傷ついている  
けんかだから ↓ 傷ついている

このように、している側はいじめと思っていなくてもされた側が傷つくなど、心身の苦痛を感じていたらいじめです。

いじめについての理解を深めていきましよう。

## 市内小中学校のいじめ認知件数

（令和2年4月～令和2年12月）

小学校：568件 中学校：63件

ふじみ野市では、いじめの定義に則って、傷ついているという児童生徒の思いに寄り添い、いじめの早期発見、早期解決に努めています。

『悪口を言われた。』『叩かれた。』等、アンケートに記載のあったものについては、いじめとして認知し、聞き取りを行ったうえで対応しています。認知件数は多くなりますが、「いじめの見逃しゼロ」「いじめで苦しむ子をゼロ」に向け、嫌な思いをしている子に早期対応できるよう取り組んでいます。

## いじめはどの学校でもどの子供にも起こりうる！

### 小中学生への6年間のいじめの追跡調査

（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導センターいじめ追跡調査）

『仲間はずれ、無視、陰口』 された経験がある・・・約9割  
した経験がある・・・約9割

小学4年生から中学3年生までの追跡調査の結果、いじめをされた経験もいじめをした経験も約9割であり、どの子供も加害者にも被害者にもなりうるということがわかります。そこで、学校では、特定の子供に向けての指導だけでなくクラス全体・学校全体に向けてのいじめ防止に向けた取組を継続して行うことが必要です。ぜひご家庭や地域でもいじめについてのお話をしていただきたいと思ひます。

## 新型コロナウイルス感染症に係るいじめについて

新型コロナウイルス感染症による影響のため、今年度、ふじみ野市内の小中学校は六月から授業が開始されました。

新型コロナウイルス感染症に係るいじめも懸念されましたが、現在のところふじみ野市内ではいじめによる不登校児童生徒はいまありません。しかし、国内の状況に目を向けると、学校で集団感染が発生し、感染者らへのいじめや誹謗中傷が起きている現状もあります。

学校では感染者や医療従事者、また、その関係者に対する差別を防止すべく、様々な資料をもとに指導を行っています。

今回はその一つをご紹介します。

日本赤十字社が発行した『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう』です。

新型コロナウイルスには3つの顔があります。第一は「病気そのもの」。第二は「不安と恐れ」、そして第三は「嫌悪・偏見・差別」です（左図参照）。この三つは互いに関係しあい、負のスパイラルを増大させていきます。この負のスパイラルを断ち切るためにできることは何か。ここでは第三の「嫌悪・偏見・差別」を防ぐた



出典『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう』（日本赤十字社）

めにはどうすればよいか考えてみましょう。ここでは二つの対策をあげています。

★「確かな情報」を広めましょう。

★差別的な言動に同調しないようにしましょう。

まずは「確かな情報」を広めること。情報過多の時代、不安をおおるような情報もあふれています。判断基準をしっかりと持ち、信ぴょう性のない情報は広めないように心掛けます。

また、不確かな情報による差別的な言動に同調しないことも大切です。新型コロナウイルス感染症は、誰でも感染する可能性があります。

## 保護者・地域のかたへ

### ○感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷を許さない

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

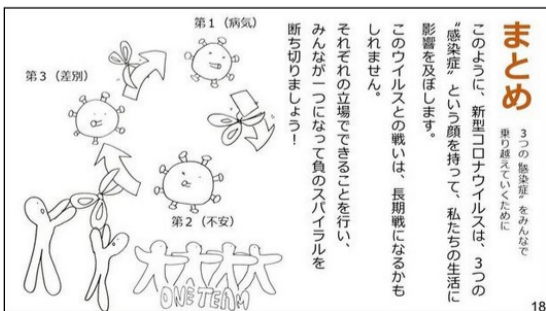
そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せず、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

### ○学校における感染症対策と教育活動の両立に対するご理解とご協力

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続へのご協力とご理解をお願いいたします。

萩生田文部科学大臣メッセージ（令和2年8月・抜粋）



出典『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう』（日本赤十字社）



# 学校・家庭・地域で一致団結して「いじめ見逃しゼロ」に…!!

～令和2年11月30日（月）令和2年度 第2回ふじみ野市いじめゼロ連絡協議会より～

第2回ふじみ野市いじめゼロ連絡協議会を令和2年11月30日（月）にふじみ野市役所にて開催しました。

第2回では今年度1学期の市内におけるいじめの状況について事務局から説明し、その後講演会が行われました。講師は狭山市教育センター主任教育相談員の田中茂樹様。演題は「いじめの現状とこれからの社会を生きる子供たちのために、地域は、学校は、家庭は何かできるか」でした。今回はその講演の概要と講演後に行われたグループ協議の様をお伝えします。



講師の田中茂樹先生

## 魅力ある学校づくり

不登校児童生徒数は近年増加傾向にある。これまでの不登校対策は不登校状態にある児童生徒への支援が中心だった。しかし、なかなか不登校児童生徒数は減少しない。これからは不登校状態にある児童生徒への支援を進める一方で、新たな不登校児童生徒を生まない取組、児童生徒にとって通うことが楽しいと思える学校づくりが求められている。そのため、学校が魅力あるものとならなければならぬ。学校による「魅力ある学校づくり」に、家庭・地域・関係諸機関がどのように関わっていくかを考えて実行していくことが求められる。ふじみ野市は今年度から市内全校で地域協働学校の取組がスタートしていると聞いた。地域と共に子供たちを育むことが、不登校減少やいじめの未然防止の一助になると考える。

## 居場所づくりと絆づくり

学校では教師主導による子どもの居場所づくりと、児童生徒主体による絆づくりが必要だ。子どもの居場所の第一は学級である。学級の理想形は「親和型学級」である。親和的な学級ではいじめが大きく減ることが各種のデータで判明している。また、学力の向上にも役立つ。まずは学級の状態を知るためにQ-Uテストを導入するのも効果的だろう。

一方、絆づくりで大切なことは、場と機会を教師や地域の大人が設定することだ。例えば、山口県下関市のある学校では学校に地域の方を招いて学習会を実施したり、子どもが地域の行事に参加したりして、子どもたちが地域の方と関わり合う機会を多く仕組んでいる。このような活動を通して、子どもたちは自己有用感や自己肯定感を高めることができ、人間関係を構築する力が高められると考える。

## 学校・家庭・地域一体で

学校と家庭、地域が協力してできることは多い。

- 【例】
- ・ 出前授業や教育講演会  
(地域の企業や保護者)
  - ・ 出前授業や実習  
(公民館や保育所職員)
  - ・ 学習ボランティア
  - ・ 図書ボランティア
  - ・ 職場体験学習
  - ・ 地域の行事ボランティア  
(夏祭り・敬老会・清掃活動等)

居場所づくりと絆づくりを通し、ふじみ野市の子どもたちが健全に成長できるよう祈念しています。

## グループ協議より

講話を受けて、参加者を2グループに分け、グループ協議を行いました。様々な立場の方からいじめ防止や魅力ある学校づくりについての意見が出されました。

◆学校はアンケートや面談等、様々な機会・方法でいじめで苦しんでいる子どもがいけないか、今後も注意深くみていく。

◆子どもが「認められている」ということがわかる体制作りを地域・学校と協働して行うことが必要。

◆子どもの活躍を認めることが大切。認められていると感じている子どもが多い学級はいじめが少ない。また、反社会的な行動に出ることも少ない。

◆あいさつ運動や見守り活動等、世代間交流を計画的に実施し、子どもを見守っていききたい。

◆地域によって高齢の方が多いところもある。子育て世代との連携が必要。子育ての知恵を伝えていく必要がある。

◆今年度地域協働学校が全校でスタートした。学校・家庭・地域をつなぐ組織として、いじめ防止にも役割を果たせるようになることよい。



グループ協議を終えて指導・助言

## 困ったときの相談窓口

悩んだ際には、まずは学校の先生・地域の方（民生委員・児童委員や主任児童委員他）・友達など身近な人に相談しましょう。また、下記のとおり、さまざまな相談機関もあります

【ふじみ野市教育相談室】  
TEL 049-266-1113  
時間 10時から17時まで

【埼玉県子どもスマイルネット】  
TEL 048-822-7007  
時間 10時30分から18時まで

【24時間子供SOSダイヤル】  
TEL 0120-0-78310  
時間 24時間

以下のURLにアクセスすると県の相談窓口のサイトが見られます。  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/e2201/kyouikusoudan.html>

学校のこと

友達のこと

自分のこと



ふじみ野市いじめゼロ連絡協議会は、いじめを未然防止するための施策を検討する会議です。9月25日に第1回会議を行い、年3回の会議でいじめ防止につながる施策について議論してきました。

【構成員】

小学校長代表	中学校長代表
小・中学校教頭代表	市民総合相談室長
子育て支援課長	社会教育課長
学校教育課長	市教育相談員
スクールソーシャルワーカー	
ふじみ野市PTA連合会代表	
ふじみ野市自治組織連合会代表	
青少年育成ふじみ野市民会議代表	
ふじみ野市民生委員	

児童委員協議会連合会代表